

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 5 年 7 月 26 日

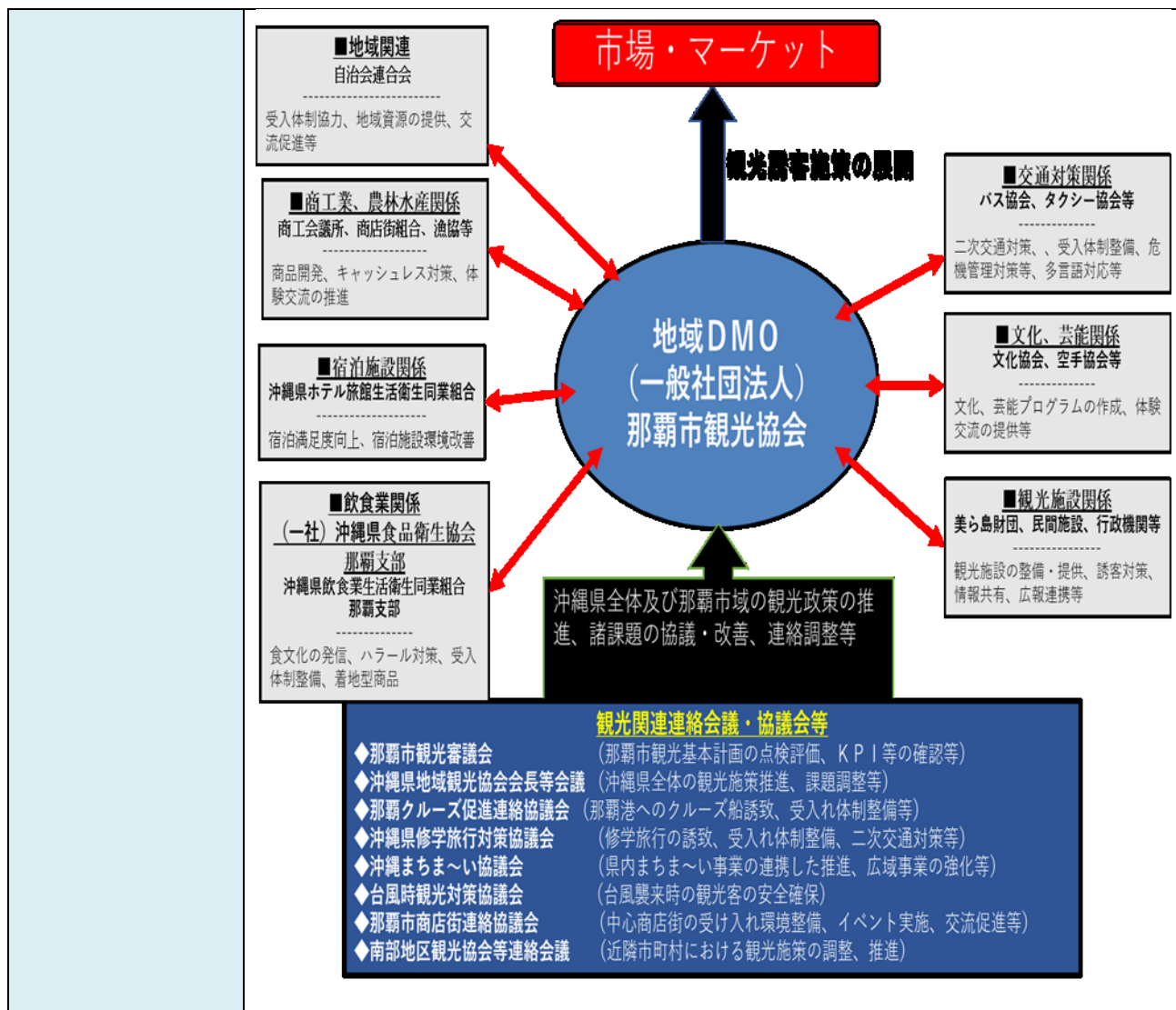
1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人那覇市観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 那覇市	
所在地	沖縄県那覇市牧志3丁目2番10号(てんぶす那覇3階)	
設立時期	・1954年(昭和29年)1月9日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	26人【常勤15人(正職員4人・出向等1人)、非常勤6人】	
代表者(トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 宮里 一郎 (出身組織名) 沖縄ホテル会長	(一社)那覇市観光協会会長として、強力なリーダーシップと発言力により、行政及び観光業界に対して、観光振興のための事業等の提案・定義を行う。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者(CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 玉村 剛 【専従】 (出身組織名) (一社)那覇市観光協会	約20年一括して当観光協会に従事。イベント・指定管理など統括。各団体との調整・データ収集など、プロモーションに取り入れた取組などの経験を有している。
財務責任者(CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 平良さやか 【専従】 (出身組織名) (一社)那覇市観光協会	当協会において、長年にわたり財務状況の把握、管理について豊富な経験を有している。
(旅行商品造成・販売)責任者	(氏名) 親里恵梨香 【専従】 (出身組織名) (一社)那覇市観光協会	(一財)沖縄観光コンベンションビューローや旅行社などに長年勤務するなど沖縄観光について精通しており、着地型商品の造成など豊富な知識と経験を有している。

<p>連携する地方公共団体の担当部署名および役割</p>	<p>沖縄県那覇市経済観光部観光課 ・観光政策統括、那覇市観光基本計画推進、ブランディング、マーケティング、KPI統計資料作成、観光危機管理</p>		
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>(自治体) ① 商工農水課：物産（土産品・伝統工芸品）の販売促進等、人材育成 ② なはまち振興課：観光名所（国際通り・公設市場等）環境整備、商店街連携 ③ 文化財課：（文化・芸術の振興、識名園・玉陵等の観光資源活用） ④ 文化振興課：（文化・芸能の振興、伝統イベント等の活用連携） ⑤ 防災危機管理課：（観光客を含めた防災対策、観光危機管理） ⑥ 都市計画課：（交通政策全般、二次交通対策・モノレール、都市景観整備・観光地修景） (交通) ① 沖縄都市モノレール(二次交通の充実) ② 沖縄県バス協会(二次交通の充実) ③ 沖縄県タクシー・ハイヤー協会(二次交通の充実) (広域連携) ・一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー：(誘客・広報) (宿泊) ① 沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合 ② 沖縄県ホテル協会 ③</p>		
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>【該当する登録要件】① ①当協会には多業種(一般・飲食・交通・宿泊・お土産・観光施設・行政等)377企業が会員企業として加盟しており、加盟企業を代表して22名(宿泊、航空会社、商店街振興組合連合会、伝統工芸、飲食業組合、マスコミなど幅広い関係団体の代表者が理事として理事会に参画し、事業計画や事業予算等の決定に参画している。 ②令和3年から新たに四役会議を立ち上げ、連携強化に取り組んでいる。 ③那覇市観光審議会によるKPIを含む観光施策の点検評価、那覇クルーズ促進連絡協議会、那覇市商店街連絡協議会において受け入れ態勢や環境整備等の具体的な方策等についての検討や情報の共有化を図っている。</p>		
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>①地域や地場産業及び市民ガイドと連携した「那覇まぢま〜い」事業を実施することにより、地域と産業振興と一体となった持続可能な観光地づくりに取り組んでいる。 ②上記「那覇まぢま〜い」を実施するにあたり、年に2回パンフレットを作成し、当該プログラムを催行実施していくうえで、那覇市管轄の自治会長会に参加して、地域資源の観光活用について説明することで周辺自治会のご理解とご支援をいただいている。自治会長会でのご質問については適宜対応するとともに、コース内容の変更等の見直しも実施している。 ③当協会事務局内に語学ボランティアバンクを設置し、クルーズ船入港時や各種イベント、インバウンド向けの観光危機管理の訓練等に活かしている。 ④「那覇まぢま〜い」4コース(那覇市民限定参加費無料)実施し、観光に対する理解を深める取り組みを実施している。</p>		
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>【活動の概要】</p> <table border="1" data-bbox="416 1937 1393 1989"> <tr> <td data-bbox="416 1937 603 1989">事業</td> <td data-bbox="603 1937 1393 1989">実施概要</td> </tr> </table>	事業	実施概要
事業	実施概要		

	情報発信・ プロモーシ ョン	<p>令和4年度事業</p> <p>① 誘客宣伝・情報発信事業 誘客宣伝活動(東京都・石川県金沢市)</p> <p>② 沖縄物産展(那覇観光キャンペーンレディ派遣) 沖縄物産公社連携</p> <p>③ 観光サイト・観光キャンペーンレディ SNS 情報発信</p> <p>④ 観光ガイドブック作成・発送提供</p> <p>⑤ 外国人観光客向け特集記事掲載</p> <p>⑥ 観光情報誌・WEB などへの素材提供</p> <p>⑦ 那覇市観光 PR(連携・協力) PV 制作(那覇商工会議所青年部) PV 制作(沖縄大学ゼミ)</p>
	受入環境の 整備	<p>令和4年度事業</p> <p>① 那覇市観光案内所運営事業 日本政府観光局認定のビジットジャパン案内所(カテゴリーⅡ)として、国内外の観光客を迎え那覇市及び沖縄県内の観光地案内、手荷物預かり、車いすの貸し出し、会員店舗のパンフレット配布などの情報発信と受け入れ態勢の充実強化に取り組んでいる。</p> <p>② クルーズ船受入整備事業 那覇クルーズ促進連絡協議会から、臨時観光案内所設置運営等の業務を受託し、クルーズ寄港時に若狭クルーズ船ターミナルや安謝新港旅客待合所に臨時観光案内所を開設し、乗客、乗員への観光案内サービスやタクシー案内等を実施し、満足度向上に取り組んでいる。</p> <p>③ (飲食・宿泊・お土産・観光危機管理)翻訳補助</p> <p>④ ボランティアバンク登録者スキルアップ研修</p> <p>⑤ 清掃活動(観光協会・沖縄県)共催</p>
	観光資源の 磨き上げ	<p>令和4年度事業</p> <p>① 那覇観光まちづくり整備事業(那覇まちま〜い) 団体客から個人客への旅行形態の変化や、那覇市にもう1泊していただくためのコンテンツとして、地域資源を活用した着地型商品の開発に取り組んでいる。</p> <p>② Naha Walking Tours(まち歩き) インバウンド向け商品として「首里城コース」「壺屋コース」「市場コース」造成した。ガイドには通訳士・地域限定通訳士などを中心にガイド養成を行い、満足度の高い商品の提供に取り組んでいる。</p> <p>③ 琉球文化日本遺産(人材育成・調査研究事業) 日本遺産認定ストーリー及び構成文化財の知識を有し、地域の一体的な魅力を紹介できる「日本遺産ガイド・受講修了者」30名</p> <p>④ 那覇の文化を体感する SUGURIMUN(すぐりむん) 那覇市には、壺屋焼、首里織、琉球びんがた、琉球漆器、琉球ガラス等、普遍的価値を持ち、長い年月にわたり受け継がれてきた伝統工芸があり、その繊細で美しい工芸品の数々は、国内外の観光客を魅了し続けている。</p>

	<p>脈々と受け継がれてきた『匠の技』に触れ、専門家の直接指導によって「那覇」でしかできない、自分だけの特別な作品を創り上げることで「満足度の高い体験」や「本物の魅力」を提供する。</p> <p>【定量的な評価】</p> <p>①「那覇ナビ」公式サイト 令和2年 461,996 令和3年 406,817 令和4年 620,097</p> <p>② 那覇市観光案内所 (来所者数) 令和2年 30,149名(国内:29,865名 海外:284名) 令和3年 30,766名(国内:30,441名 海外:325名) 令和4年 61,990名(国内:59,483名 海外:2,507名) (資料発送数) 令和2年 475件 (発送部数:62,692部) 令和3年 428件 (発送部数:51,513部) 令和4年 893件 (発送部数:100,290部)</p> <p>③ 那覇観光まちづくり整備事業 (参加者) 令和2年 2,552名 令和3年 1,846名 令和4年 2,376名</p> <p>④ Naha Walking Tours 令和4年(令和5年3月)販売開始</p>
<p>実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること(別添可)。</p>	<p>【実施体制の概要】 一般社団法人那覇市観光協会の意思決定機関である理事会には、宿泊・飲食・旅行社・航空会社・マスコミ、行政など幅広い関係者が理事として参画しており、官民一体となって那覇市の観光振興に取り組んでいる。さらに、幅広い関係者の意見の収集・課題を把握するため、観光関連連絡会議や協議会等に参加し、関係機関と連携しながら運営を実施。</p> <p>【実施体制図】</p>



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

那覇市は沖縄県の県都で、且つ政治・経済・物流の中核であり、また（空路・海路）玄関口である。当法人の設立目的で那覇市の観光振興に寄与するとの事から那覇市を区域とすることが適切

【観光客の実態等】

沖縄県の発表によると、令和4年度（2022年度）の入域観光客数は677万4,600人で、対前年度比で350万630人、率にして106.9%の過去最高の増加となった。これまで最多の1,000万4,300人を記録した平成30年度に対しては、67.7%の水準まで回復している。令和3年度と比べて増加した要因として、（新型コロナウイルス感染症にかかる行動制限のない状況が継続していること）（10月から全国旅行支援が実施され、需要喚起がなされたこと）（国内航空路線の運休・現便数の解消が進んでいること）（日本政府による外国客に対する水際対策の緩和が進んでいること）（国内・海外クルーズが再開されたこと）などが示されている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

那覇市には琉球王国に由来する文化や行事が数多くあり、那覇三大祭である那覇ハーリー、那覇大綱挽まつり、琉球王朝祭り首里などの伝統的な祭りをはじめ、一万人エイサー踊り隊や沖縄国際映画祭など参加型のイベントも数多く実施されている。また冬場の温暖な気候を生かした、プロ野球読売巨人軍春季キャンプをはじめとするスポーツイベント等も数多く開催されており、伝統、歴史、文化、スポーツ等様々なテーマで繰り広げられるイベントが魅力である。

「那覇ハーリー体験乗船」「一万人エイサーにわかエイサー体験」「ギネス級大綱挽」など、誰でも参加・体験ができる取り組みを実施している。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

近年は那覇市内全域で新規ホテル開業が見られる。

- ・ 令和5年3月24日現在の那覇市内ホテル数及び客室数（出典：沖縄県宿泊施設実態調査）
施設数（459件）
客室数（22,476室）
収容数（50,937人）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

那覇空港から市内中心部まで車で（国際通りまで約20分）

那覇空港から市内中心部までモノレールで（県庁前駅まで約12分）

那覇空港から路線バスで（バスターミナルまで約20分）

【外国人観光客への対応】

【外国人観光客への対応】

那覇市観光案内所（英語・中国語・韓国語対応）JNTO カテゴリーⅡ

外国人観光客受入整備事業（観光従事者への語学講座・サポート講習）令和3年度事業終了
多言語（ガイドブック・ガイドマップ）作成・提供

那覇 Free Wi-Fi（那覇市）

飲食店など多言語メニュー対応など増加

Naha Walking Tours（着地型商品造成・販売・ガイドスキルアップ研修の実施）

Web（外国人向け特集記事）掲載

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光消費の実態や市域への経済波及効果を把握し、より効果的な施策展開につなげる。	那覇市経済観光部より入手
延べ宿泊者数	観光客の宿泊動向把握と経済波及効果の分析等	那覇市経済観光部より入手
来訪者満足度	マーケティング、商品造成、ブランディング、施策展開のための基礎資料	那覇市経済観光部より入手
リピーター率	マーケティング、商品造成、ブランディング、施策展開のための基礎資料	那覇市経済観光部より入手
WEBサイトのアクセス状況	より効果の高い情報発信のあり方を模索するため	アクセス解析による分析 （訪問数・ページビュー・その他）
SNS分析	ネット口コミ拡大する情報を探る為	アクセス解析等
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解や意識を調査、受け入れ体制整備の基礎資料	那覇市経済観光部より入手（那覇市民意識調査[隔年実施]）

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

那覇市は沖縄観光のゲートウェイとして、交通連節や宿泊、飲食物販などで中核的機能を担っており、また目指すべき都市像の一つに「観光交流都市」を掲げています。

ここ数年は那覇市を訪問する外国人観光客の増加、「那覇クルーズターミナル」「那覇空港第二滑走路」の供用開始など、観光客数の更なる増加と来訪目的の多様化に伴う受入れ整備の充実が求められており、新たな雇用の創出や担い手不足の解消、交流人口の増加につなげることとしている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約 450 年続いた琉球王国の王都として独自の文化を形成して繁栄した都市であること。 ・琉球王国時代から連綿と続く、伝統文化、工芸品、世界遺産群等（首里城・識名園・園比屋武御嶽石門・玉陵） ・市内に海水浴、ダイビング、バーベキューが楽しめるビーチがあり、隣接する国立公園慶良間諸島へのアクセスも良く、都市部ながらマリンレジャーや自然体験を主目的とした観光も楽しむことができる。 ・宿泊施設・飲食店舗・夜間営業店舗の豊富さ。 ・モノレールをはじめ公共交通の充実 ・有名な繁華街の存在（国際通り） 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の中北部の通過点 ・観光バスやレンタカー駐車場不足 ・専門人材の不足 ・慢性的な自動車渋滞
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港の第二滑走路の供用による航空便の拡大 ・大型クルーズ船受入バース開発計画とクルーズ船寄港数増 ・沖縄県入域観光客数 1,000 万人 ・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画の実施 ・那覇市観光基本計画の実施 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風など自然災害 ・近隣地域の社会情勢（基地関連） ・オーバーツーリズムによる環境悪化

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

(3) ターゲット

○第1ターゲット層

※ターゲット層については、地域だけでなく、国・地域・世代・誘客のテーマ等の顧客の属性による設定が考えられる。

国内観光客(東京・関西・福岡・名古屋)
<p>○選定の理由</p> <p>選定の理由</p> <p>沖縄県の観光統計によると沖縄を訪れる約75%は国内観光客となっている。またコロナ禍で海外への渡航は一部解除されているものの、安心・安全面から国内旅行志向が強いと考えている。</p> <p>那覇市観光統計においてもリピーター率が増加傾向にあることから、(東京・関西・福岡・名古屋)方面からの誘客を強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内唯一の亜熱帯地域であることからリゾート感を満喫できる地域であること ・本州とは異なる独自の多様性のある歴史、文化を体験できる。(「琉球王朝時代」「米軍統治下時代」を経て形成された所謂チャンプルー文化) ・国内旅行であるが故の治安及び言語の疎通の良さ <p>○取組方針</p> <p>リピーターは他県に比して多いものの、一方では未来訪者も多い。よってライフイベント(修学旅行生・ハネムーン・学生旅行・カップル・夫婦・三世帯・プロ野球ファン)などのあらゆるマーケットセグメントに合わせた魅力ある情報の発信を行うことで、現地旅行でも好印象を持ってもらい再来訪に繋げる。</p> <p>具体的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域DMOである沖縄観光コンベンションビューローとの連携による情報発信と誘致 ・WEBやSNSを駆使した那覇市の魅力の周知 ・修学旅行等の積極的な受け入れによる将来のハードリピーターの拡大→旅行社連携 ・リゾートウェディングの誘致→ウェディングプラン事業者及び市内ホテルとの連携 ・大学生の夏休みや卒業旅行先としての誘致→ダイビング事業者等との連携 ・熟年夫婦の記念旅行先としての誘致→ガイド「那覇まちま〜い」でのゆったり街散策 ・読売巨人軍のキャンプ地であることから巨人ファンをはじめとするプロ野球ファンの誘致促進 ・地域DMOとして着地型商品開発の造成を強化する
○ターゲット層 欧米(アメリカ及びヨーロッパ)
<p>○選定の理由</p> <p>沖縄県及びOCVB(一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー)は、重点地域(台湾・韓国・香港・中国本土)のみならず、新規市場である北米、欧州、豪州からの誘客促進を強化していることから、新規市場である欧米などの長期滞在の外国人観光客をターゲットして取組する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇市はクルーズ船の寄港地として2019年は全国1位(260回)の実績があり、その多くは、中国本土、台湾、香港からの誘客となっているが、今後は比較的滞在時間の長い欧米や国内客のクルーズ船誘致にも取り組みたいと考えている。 ・那覇市は「空手発祥の地」でもあり、欧米の空手愛好家のある意味「聖地巡礼」的な要素も持ち合わせている。 ・欧米から航空機で来訪するインバウンドは滞在期間が近隣アジア諸国の観光客よりも比較的長い傾向にあるためこの点に着目し、地域経済活性化に資すると考えている。 ・米軍基地関係者・家族など訪問が見込める。 <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人旅行者の滞在日数及び消費単価の向上を図るべく、那覇まちま〜い(まち歩き)をベースにした多言語コースの造成やガイドの養成を行い旅行商品としての販売を目指す。 ・WEB/SNS等による情報発信を強化する。 ・那覇フリーWi-Fiデータを活用して外国人観光客の動向確認することで、さらなる消費拡大につなげる。


・米軍基地内の旅行者・O I S T (沖縄科学技術大学院大学)との連携。
○ターゲット層
○選定の理由
○取組方針

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	世界遺産にも登録されている琉球王朝の歴史・文化とその流れを汲んだ現在の那覇市の都市観光を楽しむ
②コンセプトの考え方	那覇市には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産登録された文化史跡 9 箇所の中の 4 箇所、それに関連する文化や史跡が数多く残されており、中心部の国際通りは第二次世界大戦後の復興のシンボルとして市民の生活文化の中心であり、県内有数の観光地として(歴史・文化・食・伝統芸能)が一堂に体験できる地域である。 また沖縄県内はレンタカー移動が支流であるが、公共交通(二次交通)を利用した観光情報発信をすることにより、免許を持たないZ世代の誘客、慢性的な交通渋滞のストレス緩和、不慣れな地域での運転を敬遠する層にも配慮した魅力的な観光都市を目指す。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<p>理事会(事業計画・事業報告)説明・承認(年2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会(地儀容報告・事業計画)説明・承認(年1回) ・交流会での意見交換会の実施(年1回) ・公式HP(役員名簿・地儀容報告・決算報告・事業計画・収支予算)公開 ・各種案内(メール発信)不定期 ・各種会議への参加(意見交換)適宜 ・地域自治会長会議(年2回) <p>「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づく、多様な業種が参加する年2回の理事会及び年1回の総会のほか、那覇市観光基本計画(那覇市観光審議会)答申を踏まえた取組の確認・修正。 また不定期ではあるが、ホテル組合や飲食業組合との情報交換、各種会議への参加で取組の周知を図る。 各年度事業報告・事業計画を当協会HPから確認できるようにする。</p>

<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<p>当協会会員の飲食店や土産品店及び宿泊施設に、当協会の年度ごとに発行する会員証を掲示することにより、お客様に安心して利用いただき会員店舗にはより良いサービス提供を指導する</p> 
<p>観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション</p>	<p>那覇市観光案内所（JNTOカテゴリーⅡ）で情報収集を行い、正確で新しい情報を提供するとともに、当会発行観光情報誌NAHA-NAVI会員店舗の紹介、イベント情報発信を実施する。またWEB関連ツールでの対応強化をはかる。</p>

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

(1) 必須KPI

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	81,721 ()	74,156 ()	67,383 ()	69,337 ()	71,347 ()	調整中 ()
	実績	未実施 ()	65,484 ()	58,509 ()			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	8,850 ()	7,820 ()	4,880 ()	5,850 ()	7,040 ()	調整中 ()
	実績	5,605 ()	2,796 ()	4,953 ()			
●来訪者満足度 (%)	目標	90 ()	90 ()	94 ()	94 ()	94 ()	調整中 ()
	実績	未実施 ()	未実施 ()	96.7 ()			
●リピーター率 (%)	目標	75 ()	76 ()	77 ()	78 ()	78 ()	調整中 ()
	実績	未実施 ()	85.5 ()	84.1 ()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

那覇市(自治体)との連携による一体的な観光まちづくり・市民との協働を推進するため、那覇市が平成27年度に策定した「那覇市観光基本計画」を採用している。

なお新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、那覇市では令和3年11月「コロナ期観光回復戦略」を策定(戦略期間：令和3年度～令和6年度)同戦略の目標値として、旅行消費額や延べ宿泊者数はコロナ禍前(令和元年度)の数値としていたが、令和4年度実績を踏まえ、目標値を設定して随時見直しを行っていくこととする。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

那覇市観光基本計画の観光客一人あたり消費額の最終年度目標値が9万円となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて旅行需要が低迷しており、目標額の達成は非常に厳しい状況にあると考えている。当協会としてR3年度の実績に過去の消費額平均伸び率約2.9%の伸びを各年度の目標値に伸び率を乗じて設定。

(随時見直しを行うこととする)

●延べ宿泊者数

那覇市観光基本計画の延べ市内宿泊者数の最終目標値は1,300万人泊となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて最終目標値達成は困難である。

コロナ前の平均伸び率約8.6%を基に将来目標値を設定。

(随時見直しを行うこととする)

●来訪者満足度

那覇市へ観光で訪れた方の満足度はこれまでも 90%前後を維持しており、高い数値で推移している。今後も多くの方々に満足いただける観光地を目指すため、これまでの実績を維持する目標値で設定。

引き続き令和 4 年目標値を維持できるよう設定する。

●リピーター率

那覇市に再訪の意思がある観光客は 90%前後となっており、実際の再訪率も 75%前後と高い割合で推移している。新規来訪者が今後の再訪者にも繋がることから、一定割合の新規来訪者は必要であり、再訪率はこれまでの実績を維持する目標値で設定。

当協会としては R 1 年度の来訪回数のうち 2.2%が初回訪問であり、十分リピーターとしての可能性を持っている事から H29 年～令和 1 年の平均値 75.9%から 1%増を目標値として設定する。

(随時見直しを行うこととする。)

(2) その他の目標

指標項目		2020 (R 2) 年度	2021 (R 3) 年度	2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度
●住民満足度 2 年に 1 度実施 (%)	目標	()	70	()	72.2	()	72.2
	実績	()	70.8	()			
●ページビュー 数	目標	1,177,281	923,992	470,028	713,111	820,077	943,088
		()	()	()	(71,311)	(82,000)	(94,308)
	実績	461,996	406,827	620,097			
		()	()	64,120			
		()	()	()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

(市民満足度調査) 2 年に 1 回

日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後のまちづくりに反映させるための参考資料とするものである。

(公式 HP ページビュー)

団体旅行(パッケージツアー)から個人旅行(FIT)への移行から、今後はインターネットで(旅まえ・旅なか)など地域の情報発信が益々重要になってくると考えている。

【設定にあたっての考え方】

●(市民満足度調査)

「住んでよし」「訪れてよし」の観光地を目指すに当たり、市民の観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について把握する必要がある

●(ページビュー)

Google アナリティクスなどで定期的なアクセス分析を実施することにより、ユーザーに必要な情報提供を目指す。

2022(R4)は(620,097)前年比 131%増、2023(R5)は目標(713,111)として情報発信に努める。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。
 ※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（1）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2020（R2） 年度	262,154,000（円）	【市町村からの補助金】79,680,000円 【地方公共団体からの指定管理収入】26,371,478円 【会費収入】15,320,000円 【事業収入】139,682,522円 【その他寄付等】1,100,000円
2021（R3） 年度	168,338,322（円）	【国からの補助金】0（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】73,925,780（円） 【公物管理受託】17,709,088（円） 【収益事業】63,256,025（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等13,447,429（円）
2022（R4） 年度	154,623,608（円）	【国からの補助金】9,935,608（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】76,864,000（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】54,824,000（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等13,000,000（円）
2023（R5） 年度	144,618,000（円）	【国からの補助金】0（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】90,224,000（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】41,394,000（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等13,000,000（円）
2024（R6） 年度	144,618,000（円）	【国からの補助金】0（円） 【都道府県からの補助金】0（円） 【市町村からの補助金】90,224,000（円） 【公物管理受託】0（円） 【収益事業】41,394,000（円） 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等13,000,000（円）
2025（R7）	144,618,000（円）	【国からの補助金】0（円）

年度		【都道府県からの補助金】 0 (円) 【市町村からの補助金】 90,224,000 (円) 【公物管理受託】 0 (円) 【収益事業】 41,394,000 (円) 【特定財源 (宿泊税、入湯税、負担金等)】 等 13,000,000 (円)
----	--	--

(2) 支出

年 (年度)	総支出	内訳 (具体的に記入すること)
2020 (R2) 年度	261,826,000(円)	【一般管理費】 84,571,000 円(運営・案内所)補助金 【誘客宣伝費】 2,680,000 円(HP・交流都市・巨人軍) 【事業費】 161,473,000 円 【観光イベントの開催費】 13,102,000 円 (円)
2021 (R3) 年度	167,274,193 (円)	【一般管理費】 131,257,904 (円) 【情報発信・プロモーション】 1,239,407 (円) 【受入環境整備等の着地整備】 31,995,553 (円) 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 2,781,329 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 0 (円) 【観光イベントの開催費】 等 0 (円)
2022 (R4) 年度	144,175,000 (円)	【一般管理費】 106,809,000 (円) 【情報発信・プロモーション】 6,782,000 (円) 【受入環境整備等の着地整備】 13,817,000 (円) 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 5,099,000 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 0 (円) 【観光イベントの開催費】 等 11,668,000 (円)
2023 (R5) 年度	144,595,000 (円)	【一般管理費】 98,263,000 (円) 【情報発信・プロモーション】 7,575,000 (円) 【受入環境整備等の着地整備】 21,503,000 (円) 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 2,230,000 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 689,000 (円) 【観光イベントの開催費】 等 14,335,000 (円)
2024 (R6) 年度	144,595,000 (円)	一般管理費】 98,263,000 (円) 【情報発信・プロモーション】 7,575,000 (円) 【受入環境整備等の着地整備】 21,503,000 (円) 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 2,230,000 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 689,000 (円) 【観光イベントの開催費】 等 14,335,000 (円)
2025 (R7) 年度	144,595,000 (円)	一般管理費】 98,263,000 (円) 【情報発信・プロモーション】 7,575,000 (円) 【受入環境整備等の着地整備】 21,503,000 (円)

	<p>【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 2,230,000（円）</p> <p>【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 689,000（円）</p> <p>【観光イベントの開催費】等 14,335,000（円）</p>
--	---

（３） 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成・販売等の取組・方針を記載

- ・ 市内事業所への協会加盟促進を図る
- ・ 那覇市観光案内所並びにショップなどは収益拡大に取り組む

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。

沖縄県那覇市は、一般社団法人那覇市観光協会を本市における地域DMOとして登録したいので、一般社団法人那覇市観光協会とともに申請します。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

（例）エリアが重複する●●DMOとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	玉村 剛
担当部署名（役職）	事務局次長
郵便番号	9000013
所在地	沖縄県那覇市牧志3丁目2番10号
電話番号（直通）	098-862-1442
FAX番号	098-880-6893

E-mail	tamura@naha-navi.or.jp
--------	------------------------

1 1. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	那覇市
担当者氏名	與那覇
担当部署名（役職）	那覇市経済観光部観光課主幹
郵便番号	
所在地	那覇市泉崎 1 - 1 - 1
電話番号（直通）	098-862-3276
FAX番号	098-862-1580
E-mail	59668HIRO@city.naha.lg.jp

都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
FAX番号	
E-mail	

記入日：令和5年7月21日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

沖縄県 那覇市

【設立時期】 昭和31年10月5日

【設立経緯】

①区域の観光協会がDMOに移行

【代表者】 会長 宮里 一郎

【マーケティング責任者(CMO)】 玉村 剛

【財務責任者(CFO)】 平良さやか

【職員数】 26人(常勤15人(正職員4人・出向等1人)、非常勤6人)

【主な収入】

(例)収益事業 26百万円、委託事業 15百万円(4年度決算)

【総支出】

(例)事業費 102百万円、一般管理費 41百万円(4年度決算)

【連携する主な事業者】

- 一般財団沖縄観光コンベンションビューロー
- 那覇市観光ホテル旅館事業協同組合
- 那覇市飲食業衛生協同組合 一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会

KPI(実績・目標)

※()内は外国人に関するもの。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行消費額 (円)	目標	81,721 (-)	74,156 (-)	67,383 (-)	69,337 (-)	71,347 (-)	調整中 ()
	実績	未実施 (-)	65,484 (-)	58,509 ()	—	—	—
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	8,850 (-)	7,820 (-)	4,880 ()	5,850 ()	7,040 ()	調整中 ()
	実績	5,605 (-)	2,796 (-)	4,953 ()	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	90 (-)	90 (-)	94 ()	94 ()	94 ()	調整中 ()
	実績	未実施 (-)	未実施 (-)	96.7 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	75 (-)	76 (-)	77 ()	78 ()	79 ()	調整中 ()
	実績	未実施 (-)	85.5 (-)	84.1 ()	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

【主なターゲット】

国内観光客(東京・関西・福岡・名古屋)
アメリカ・ヨーロッパ

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・伝統行事(那覇ハーリー・那覇大綱挽)誘客
- ・スポーツイベント(読売巨人軍春季キャンプ)誘客
- ・世界遺産(首里城・識名園・玉陵)誘客
- ・修学旅行(東京・大阪)説明会参加誘致

【観光地域づくりのコンセプト】

世界遺産に登録されている琉球王朝の歴史・文化と
その流れを汲んだ現在の那覇市の都市観光を楽しむ

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・ガイドと巡る街歩きの取組
- ・爬龍船乗船体験の商品造成

【受入環境整備】

- ・那覇市観光案内所運営
- ・クルーズ船臨時観光案内所運営
- ・多言語ボランティア運営
- ・Naha Walking Tours(外国人向け街歩き)
- ・観光従事者向け翻訳サポート

【情報発信・プロモーション】

- ・公式ホームページ運営
- ・地元大学との観光PV作製
- ・県外(祭り・物産展)参加

【その他】

- ・平和学習メニューの造成

